

つまめる外科用はさみ

シヤルマン、慈恵医大と開発



眼鏡フレームメーカー最大手のシヤルマン（福井県鯖江市）は22日、切る・つまむ・はがすという3つの機能を併せ持つはさみなど外科手術用の

器具Ⅱ写真Ⅱを2014年2月から国内外で発売すると発表した。東京慈恵会医科大学との共同開発で、眼鏡技術を応用した医療器具の第3弾。初年度に国内で2000本、海外で8500本を販売し、5億円の売り上げを見込んでいる。

手術用の鉗子（かんし）など7種類。さらに4、5種類を追加する計画だ。同社の微細加工技術と、同大学血管外科の大木隆生教授が考案したデザインを融合した。「大木インベンツ」と名付けて、国内ではディーブイエックスが販売を担当する。主力のはさみは血管外

科、消化器外科、産婦人科など幅広い手術に利用できるという。従来は切る・はがすという2つの機能を持つはさみが使われているが、つまむ機能を持つはさみはなかった。2機能のはさみの価

格は7万〜8万円だが、新製品の価格はその約1・5倍を予定している。大木教授は米アルバートアインシュタイン医科大学教授も兼ねる血管手術の第一人者で、年間800件の手術をこなすと

いう。同日開かれた記者会見で「海外や日本の大企業との連携も考えたが、高い技術力を持つシヤルマンと組むことで、眼鏡不況で苦しむ地域の崩壊を食い止めた」と連携の理由を話した。

シヤルマンは中国からの安価な眼鏡のため市場がしばむ中、蓄積した技術を基に経営の多角化を目指している。医療器具では12年4月に眼科分野に、13年2月には脳神経外科分野に進出した。